

ふね遺産 第1回 応募案件-15

「ふね遺産」(応募様式): A4一枚に収め、それ以上は別途資料添付して下さい。

2016年12月11日提出 氏名(個人名または団体の代表者名): 新開明二

所属(個人は住所): ふね遺産西部地区調査検討委員会

メールアドレス: shinkaishinkai2015@outlook.jp

その他の連絡先: 〒813-0011 福岡市東区香椎5-11-8 TEL 092-681-0313

	内容	備考
1. 対象物・資料の名称・所属または所有者	・若松港軍艦防波堤 ～ 礎: 3隻の帝国海軍駆逐艦 ～ ・所属: 北九州市港湾局、北九州市“時と風”の博物館	日本帝国海軍の駆逐艦3隻の船体が、昭和23年9月、資材不足を補うため防波堤として、洞海湾入口に沈設・据付。北側の響灘埋め立てにより防波堤の役割は減じたが、今でも「軍艦防波堤」として市民に親しまれている。
2. 対象物の作成・存在時期	桃型駆逐艦は新規設計がなされ、「柳」は、1915年(大正4年)に佐世保海軍工廠で建造。涼月(すずつき)は、日本海軍の駆逐艦「秋月型駆逐艦」で、1942年三菱長崎造船所にて竣工、「冬月」は同秋月型で、1944年舞鶴海軍工廠で竣工。	三艦ともに若松港船溜りに曳航。若松港入港路西側に沖に向かって伸びていた浅い砂州上に三艦が陸側から「柳-涼月-冬月」の順で一列に沈設。770mの防波堤の中核400mを形成。
3. 現状 (写真添付)	 沈設当時の防波堤の状況を考えれば、外海(響灘)より大波が進入し、防波堤は消波に大きく貢献していた。その分損傷も急速に進んだ。	 埋め立てにより、大波の進入は少なくなったが、ある季節における特殊な気象状態の際に、東北東に開けた洞海湾口よりの大波の進入があり、軍艦防波堤に損傷を与える可能性は存在する。昭和36年台風による破損により船体部が大きく崩壊。北九州市港湾局は修復工事を施行。
4. ふね遺産認定基準の該当項目	【認定対象】(2)、(3)、(4) 【認定基準】(7)、(8)、(12)	軍艦防波堤の礎となった3隻の駆逐艦(「柳」、「涼月」、「冬月」)の戦歴、防波堤の構成材としての貢献を認定対象
5. 歴史的・工学技術的意義	駆逐艦「柳」は、二等駆逐艦としては初めてタービン推進を採用。一等駆逐艦に勝るとも劣らない強力な兵装を備えた画期的な艦。秋月型は航空戦隊の直衛艦、防空駆逐艦として計画されたが、雷装も付与され乙型駆逐艦と呼称。「涼月」、「冬月」ともに秋月型に属し、多くの作戦に、艦隊の防空直衛艦として参加し活躍して、多大なる戦果をあげた。	「柳」は船首楼の乾舷を高くしてフレアを増し船首楼を長くし艦橋も後方に置き凌波性能が良好で、推進効率も良い成績を示した。秋月型は新式の10cm連装高角砲4基搭載。対空火器の総決算と称すべき高性能を示す。3隻とも日本帝国海軍が設計・建造した艦船の中でも、造船技術史的に極めて高い価値が認められる。
6. 参考資料・文献 (本表に収まらない場合は別途添付する)	・松尾敏史著『若松軍艦防波堤物語～戦いの記憶を語り継ぐ～』(公)福岡県人権研究所、2013年 ・澤 章著『軍艦防波堤へ 駆逐艦涼月と僕の昭和二〇年四月』(株)栄光出版社、2010年 ・(社)日本造船学会(編)『日本海軍艦艇図面集』(株)原書房、1975年	・若松の軍艦防波堤について記憶を語り継ぐことを目的としたグループが存在し関連の資料が収集されている。 ・駆逐艦3隻の沈設・据付当時の写真、間書き等が存在する。 ・駆逐艦の設計図書を閲覧可能。